

## 0.1 H29 数学選択

[A] (1)  $\varphi(f+g) = f+g, \varphi(fg) = fg, \varphi(1) = 1$  より部分環.

(2)  $\psi(f(s, t, u)) = f(x^3, y^3, xy)$  とする.  $\varphi(f(x^3, y^3, xy)) = f(x^3, y^3, xy)$  より  $\psi(f) \in R$  である. 準同型であることは明らか.  $R$  の任意の元は  $g(x, y) = \sum_{3|(i+2j)} a_{ij} x^i y^j$  と表される.  $\sum_{3|(i+2j)} a_{ij} x^i y^j = \sum_{i \equiv 0 \equiv j} a_{ij} x^i y^j + \sum_{i \equiv 1, j \equiv 1} a_{ij} x^i y^j + \sum_{i \equiv 2, j \equiv 2} a_{ij} x^i y^j = \sum_{i \equiv 0 \equiv j} a_{ij} x^i y^j + xy \sum_{i \equiv 1, j \equiv 1} a_{ij} x^{i-1} y^{j-1} + (xy)^2 \sum_{i \equiv 2, j \equiv 2} a_{ij} x^{i-2} y^{j-2}$  とできる.  $k \leq \ell$  に対して  $x^{3k} y^{3\ell} = (xy)^{3k} y^{3(\ell-k)} = u^{3\ell} t^{\ell-k}$  とできるから  $\sum_{i \equiv 0 \equiv j} a_{ij} x^i y^j$  は  $\psi$  の像である. 他の項も同様であるから  $\psi$  は全射である.

(3)  $(st - u^3) \subset \ker \psi$  は明らかである.  $f \in \ker \psi$  に対して  $f(s, t, u) = (st - u^3)g(s, t, u) + u^2 h_1(s, t) + u h_2(s, t) + h_3(s, t)$  である.  $\psi$  で送れば  $(xy)^2 h_1(x^3, y^3) + xy h_2(x^3, y^3) + h_3(x^3, y^3) = 0$  である.  $x, y$  の次数について 3 の剰余に着目すれば  $h_1(x^3, y^3) = h_2(x^3, y^3) = h_3(x^3, y^3) = 0$  より  $h_1 = h_2 = h_3 = 0$  がわかる. よって  $\ker \psi = (st - u^3)$  である.

[B] (1)  $f(T) = \frac{T^{17}-1}{T-1}$  である. よって  $f(T+1) = \frac{(T+1)^{17}-1}{T}$  である. 0 次の係数は  $\binom{17}{1} = 17$  である. 17 は素数であるから  $T^i$  ( $i = 1, 2, \dots, 15$ ) の係数は 17 の倍数である. よってアイゼンシュタインの既約判定法から  $f(T+1)$  は既約である. よって  $f(T)$  も既約である.

(2)  $f(T)$  の根は  $\zeta_i$  ( $i = 1, 2, \dots, 16$ ) である. したがって  $\mathbb{Q}(\zeta)/\mathbb{Q}$  は正規拡大であるから  $\mathbb{Q}$  が完全体であることより Galois 拡大である.

(3)  $\text{Gal}(\mathbb{Q}(\zeta)/\mathbb{Q})$  の任意の元は  $\zeta$  の行き先で定まり, 行き先の候補は  $\zeta_i$  ( $i = 1, 2, \dots, 16$ ) のいずれかである.  $\sigma(\zeta) = \zeta_i$  について  $\varphi: \text{Gal}(\mathbb{Q}(\zeta)/\mathbb{Q}) \rightarrow (\mathbb{Z}/17\mathbb{Z})^\times; \sigma \mapsto [i]$  とする.

全射準同型であることは明らか.  $\varphi(\sigma) = 1$  は  $\sigma(\zeta) = \zeta$  を意味するから  $\varphi$  は単射である. よって同型.

(4)  $\mathbb{Q}(\alpha) \subset \mathbb{R}$  である. よって  $\mathbb{Q}(\alpha)$  は  $\mathbb{Q}(\zeta)$  の真の部分体である.  $x^2 - \alpha x + 1$  とすれば根は  $\zeta, \zeta^{-1}$  である. よって  $\mathbb{Q}(\zeta)/\mathbb{Q}(\alpha)$  は 2 次拡大である.  $\mathbb{Z}/17\mathbb{Z}$  が体であるから乗法群は巡回群となる. よって  $(\mathbb{Z}/17\mathbb{Z})^\times \cong \mathbb{Z}/16\mathbb{Z}$  である.  $\mathbb{Z}/16\mathbb{Z}$  において位数 2 の元は  $[8]$  のみであるから,  $\text{Gal}(\mathbb{Q}(\zeta)/\mathbb{Q}(\alpha)) \cong \{[0], [8]\}$  である. よって正規部分群であるから  $\text{Gal}(\mathbb{Q}(\alpha)/\mathbb{Q}) \cong (\mathbb{Z}/16\mathbb{Z})/\{[0], [8]\} \cong \mathbb{Z}/8\mathbb{Z}$  である.